

がん治療と離島の課題

ゆうかぎの会

(離島におけるがん患者支援を考える会)

真栄里隆代

島ちゃび(離島苦)

病気で治療のために海を渡らなくてはいけない時
豊かな海は試練の海となる。

離島では、夜間や悪天候で海を渡れず、救える生命を
落とすことがある。

お金がないと命をあきらめてしまう

望む医療にたどり着くのにハードルがある
経済的、精神的な負担を抱えてしまう

離島の課題とは？

①社会的な背景

②経済問題

③情報問題

④相談支援問題

⑤精神的支援問題

⑥期待されるこれからの取り組み



がんを取りまく社会の状況

- ① 過疎化、高齢化、介護力低下
- ② 経済的に貧しい
- ③ 情報不足、知識不足、
死のイメージが強くタブー視。
一部がんに対する偏見がある
「たたり」、「うつる」
- ④ 患者、家族の支援体制が不十分
- ⑤ 患者、家族の支援体制が不十分

医療の課題

- ① 放射線治療ができない
- ② 骨シンチ・ペット検査が できない
- ③ 血液がんの専門医がいない
- ④ 一部の化学療法ができない
- ⑤ 島に緩和ケア病棟がない
- ⑥ 情報支援・相談支援の体制がまだ
不十分

島で出来ないことが多々ある

宮古島の死亡原因のトップは「が
ん」

死因全体の25%をしめる

理解と支援の必要性

経済問題

- 渡航費

離島割り引きで往復2万6千円

家族に付き添ってもらうと倍の5万2千円

- 滞在費

ホテル

アパート（家賃、敷金、礼金、家具）

ウイークリーマンション

- 治療費

- **経済問題から見る患者は、**

①患者は収入を断たれ、治療費、渡航費、滞在費、生活費を捻出しなければいけない社会的弱者である

②「離島だから」と命をあきらめさせない支援が必要！！

- **患者の生活を支える経済支援、負担の軽減策が望まれる**

情報問題

1. 医学書が少ない、
2. パンフレットがない
3. 6割の方はネットが使えない



島は情報の得にくい環境である。

情報不足は、

命の重さを左右する重大な不利益である！

過疎化、高齢化する 情報の少ない離島だからこそ

＜情報支援体制の整備＞が必要！

孤軍奮闘させない 寄り添う支援を！

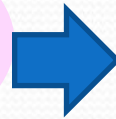
情報・相談支援センターの設置を！患者図書室の設置を！

精神的支援の問題

心を支える体制が不十分

個人での解決を求められている。

- 病気への不安
- 将来に対する不安



頭が真っ白



- 相談支援体制の不十分さ
- 経済問題
- 情報の無さ



精神的問題を大きくする

求める時、求める人に 提供できるメンタルサポート体制の確立

病気になっても安心して暮らす為に

- ① みんなが自分の事として考え
手を差し伸べる
- ② 患者、家族を孤立させない
- ③ 患者や家族の声が医療、行政に
直接届く場を作る。
- ④ 情報交換し良い支援は
広げていく。



相談支援者をお願いしたいこと

患者は、いちばん近くで寄り添って
支援するあなたが頼りです！

離島であることは変えられない
でも離島のハンディを減らすことは出来る